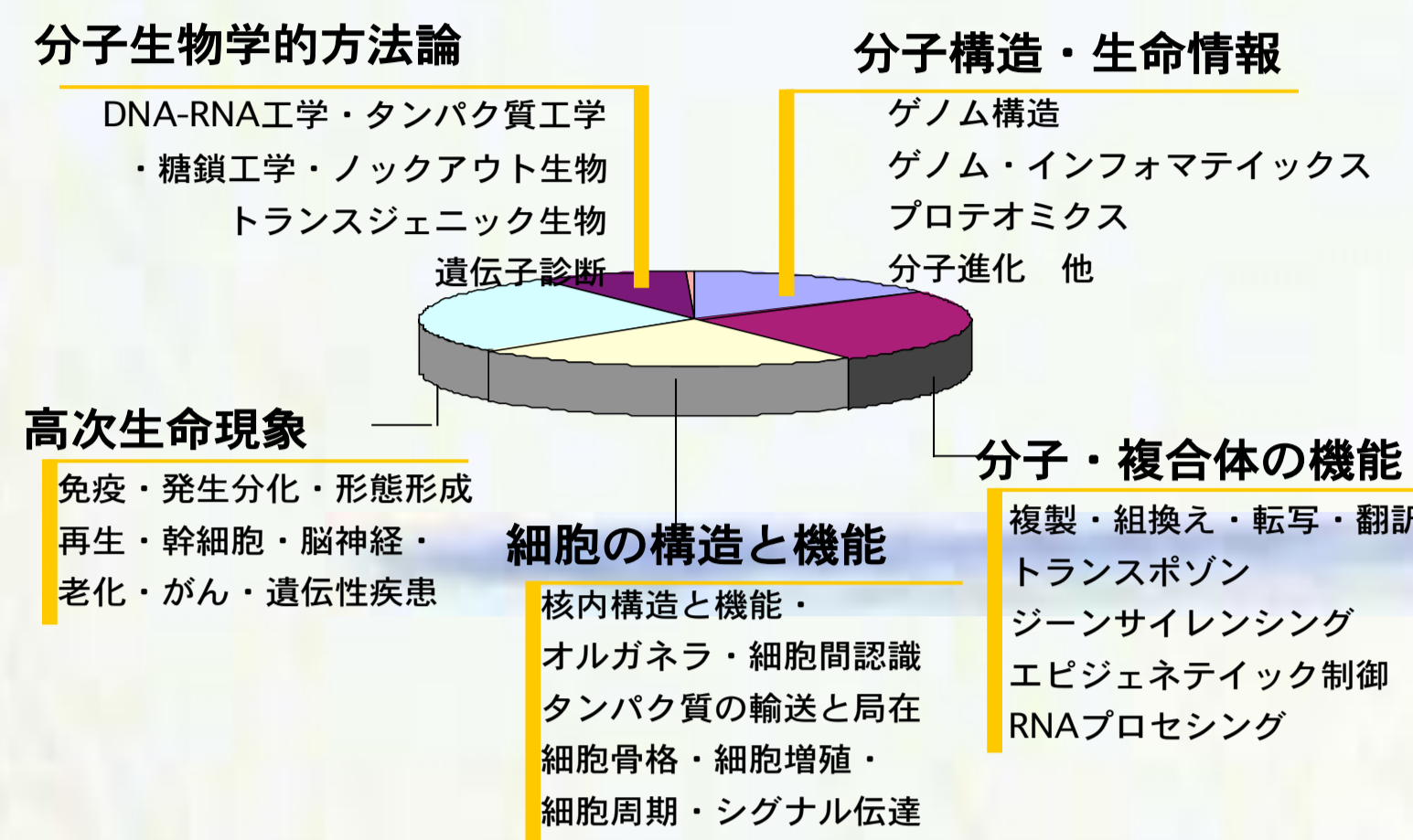


年会保育室ことはじめ

日本分子生物学会
男女共同参画委員会

1. 日本分子生物学会はこんな学会です。

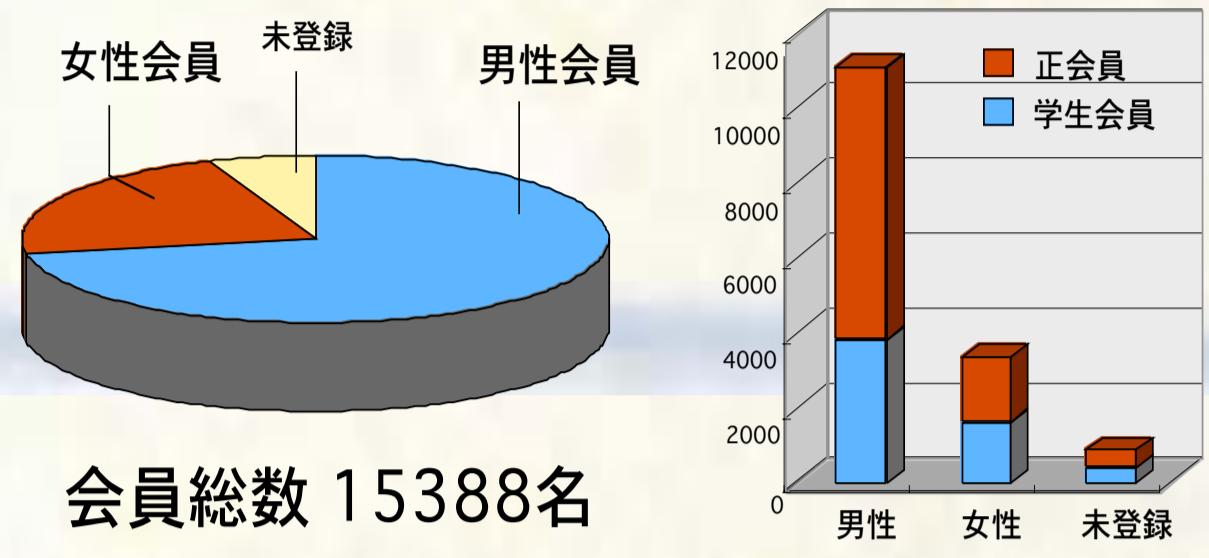
日本分子生物学会はライフサイエンスのすべての分野をカバーしている。



女性会員の比率は高い。

一般会員: 19.3%
学生会員: 30.7%
学生会員比/一般会員比: 1.59

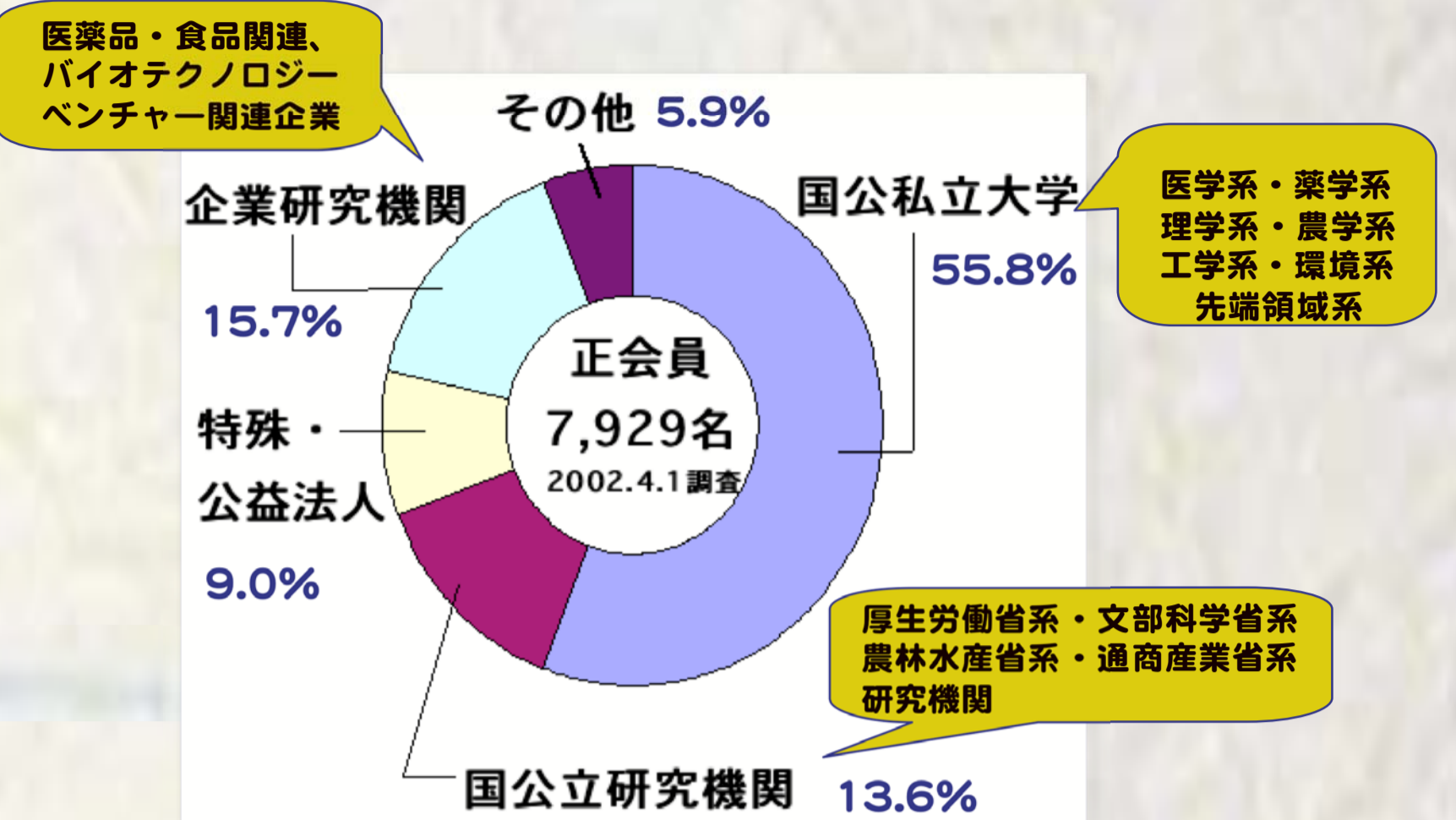
会員の男女比



会員総数 15388名

会長 1名・評議員 28名・幹事 3名
(内女性 3名)

ライフサイエンスの研究は多くの大学・企業・研究機関ですすめられている。



2. なぜ年会保育室が必要か？

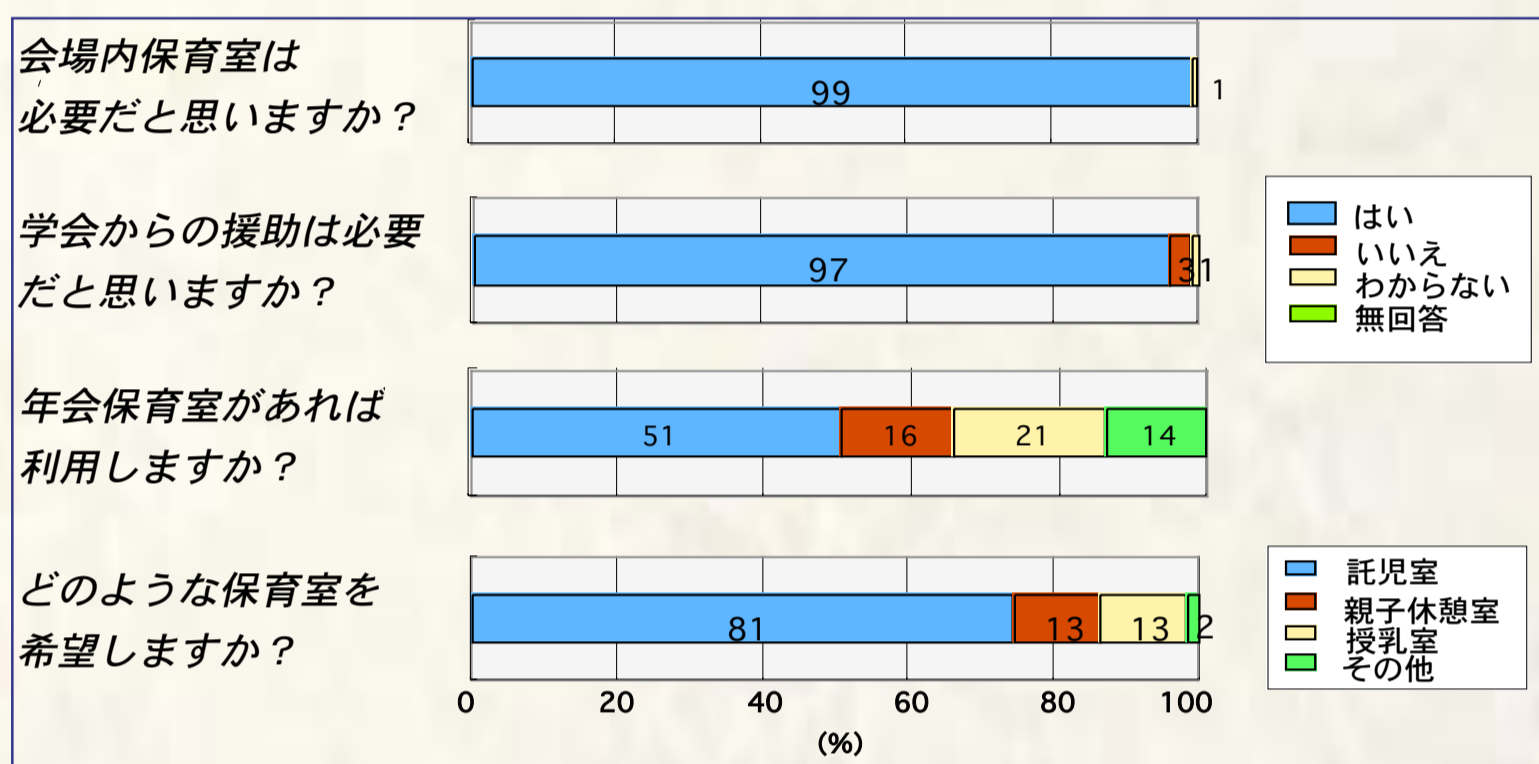
Q: 年会保育室がなかったら、あなたは怎么样了か？

A: 自分の発表日のみの参加を余儀なくされた。参加、発表をあきらめた。会場近隣の民間託児施設を利用した。(保育料が高い、事前調査が大変) 実家の両親に保育を依頼した(自宅→実家→年会→実家→自宅; 時間もお金も大変!!)

母親研究者にも大きく門戸を開いた学会であってほしい!!

2001年保育室利用者アンケートより抜粋

若手有志によるアンケートの結果 (2000年12月)



第24回年会の懸案事項となる

シッターさんの配置

- 0~1 歳児: こども2人/シッター1人
- 2~3 歳児: こども3人/シッター1人
- > 4 歳児: こども5人/シッター1人

保育時間

プログラム開始30分前~終了30分後まで30分刻みで申し込める。

保育環境

カーペット敷き、玩具、寝具、加湿器、ビデオ、絵本、お絵かきセット、工作材料
規則正しい保育: おやつ、お昼寝、お散歩、トイレタイム
昼食は親と一緒にとる。

年会保育室のあゆみ

2000年 (第23回神戸)

2001年 (第24回横浜)

2002年 (第25回横浜)

2003年以降 (第26回神戸)

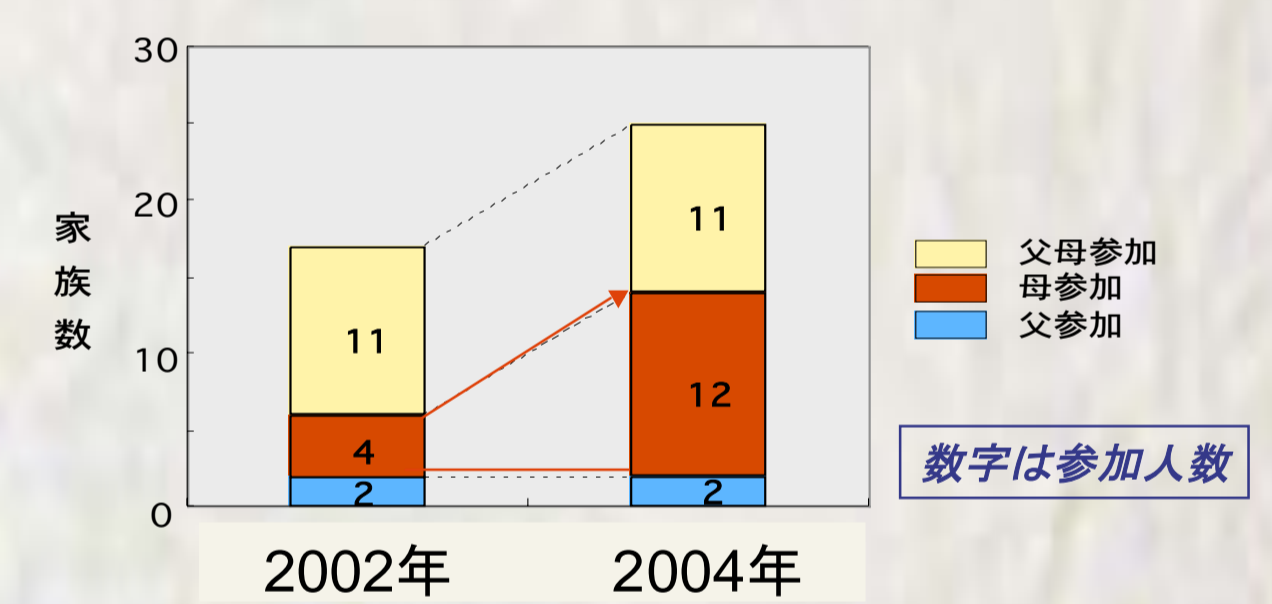
若手有志によるアンケート (12月) (ここがすべてのはじまり!!)

山本年会長の決断でゴーサイン、年会保育室設置WGがスタート (5月) 年会保育室の成功!! (12月) 17家族 34名・パシフィコ横浜

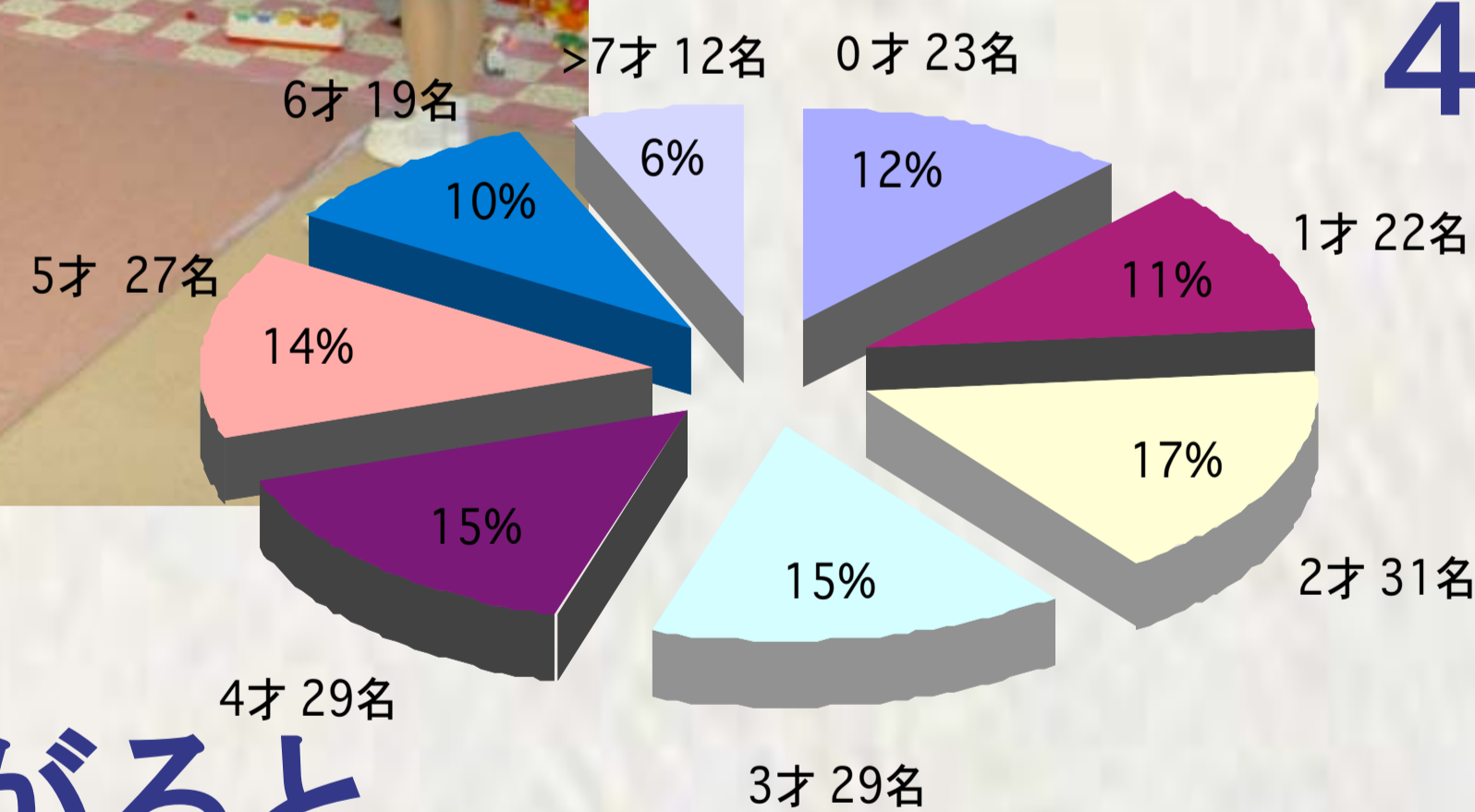
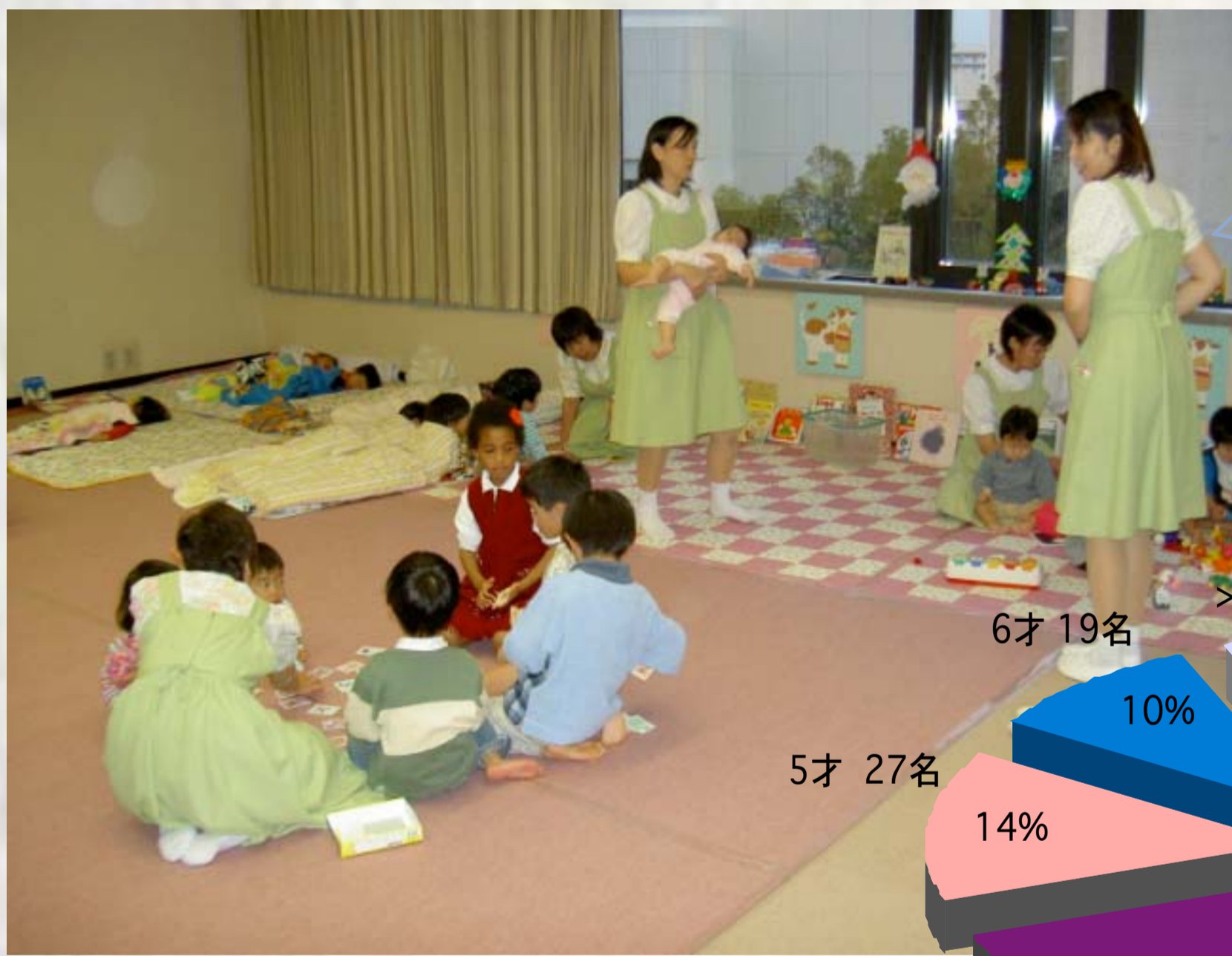
WGから評議員会へ要望書の提出 (1月) ・寄付ではなく、学会からの補助を。 ・ボランティアによる運営ではなく学会事務局による恒常的運営を。 ・評議員会で正式にみとめられる。以後、年会組織委員会の担当で継続的に設置

業者に委託する形式を続行 年会がガードマンを配置(保安のため) 費用の9割以上を年会で負担

すっかり会員に定着、母親研究者の年会参加は3倍もふえた(下図)。



3. ある午後の保育室



4. 保育料は400円/時間で下げ止まり

	2001年	2002年	2003年	2004年
0才児	800	800	800	400
1才児以上	600	600	400	400

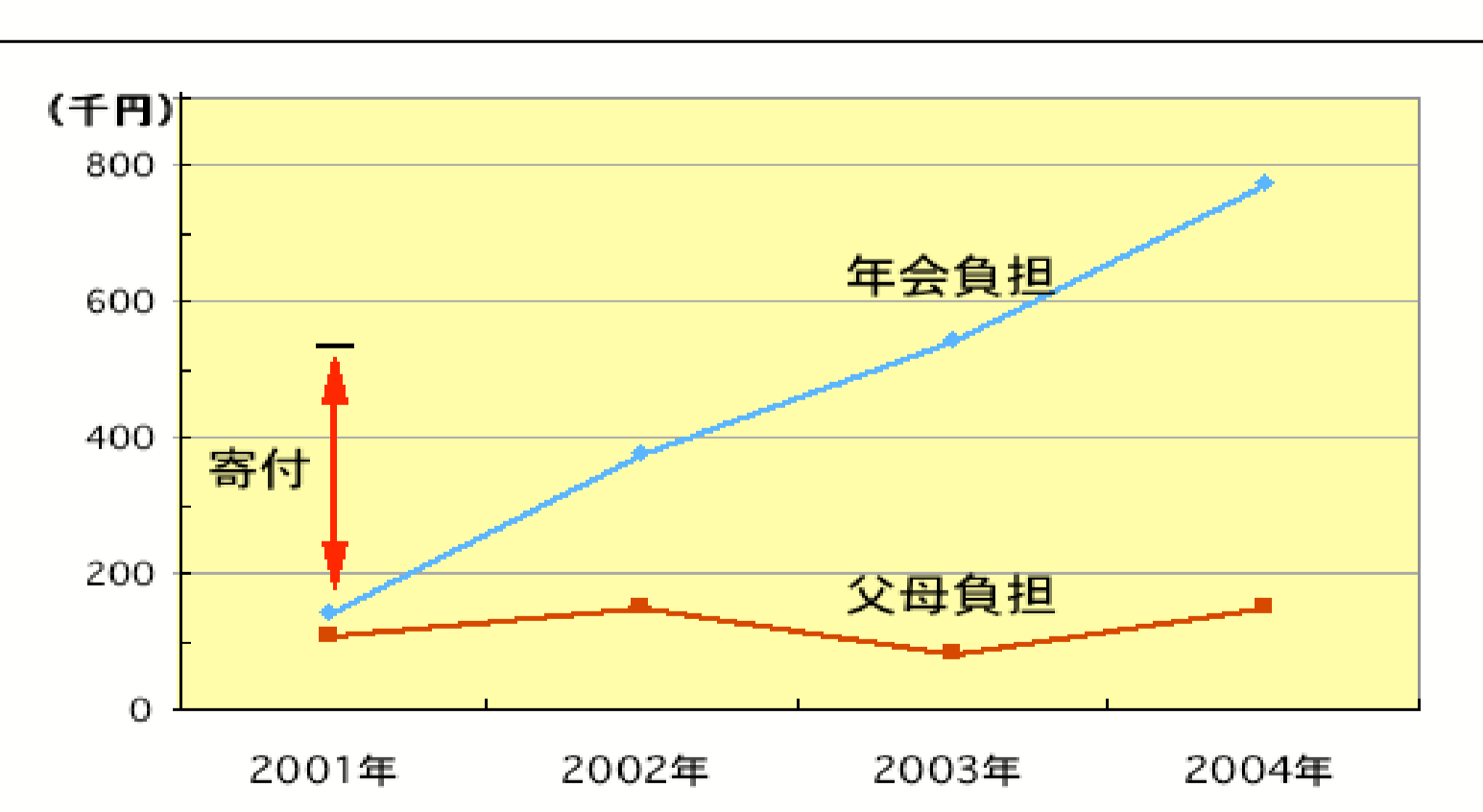
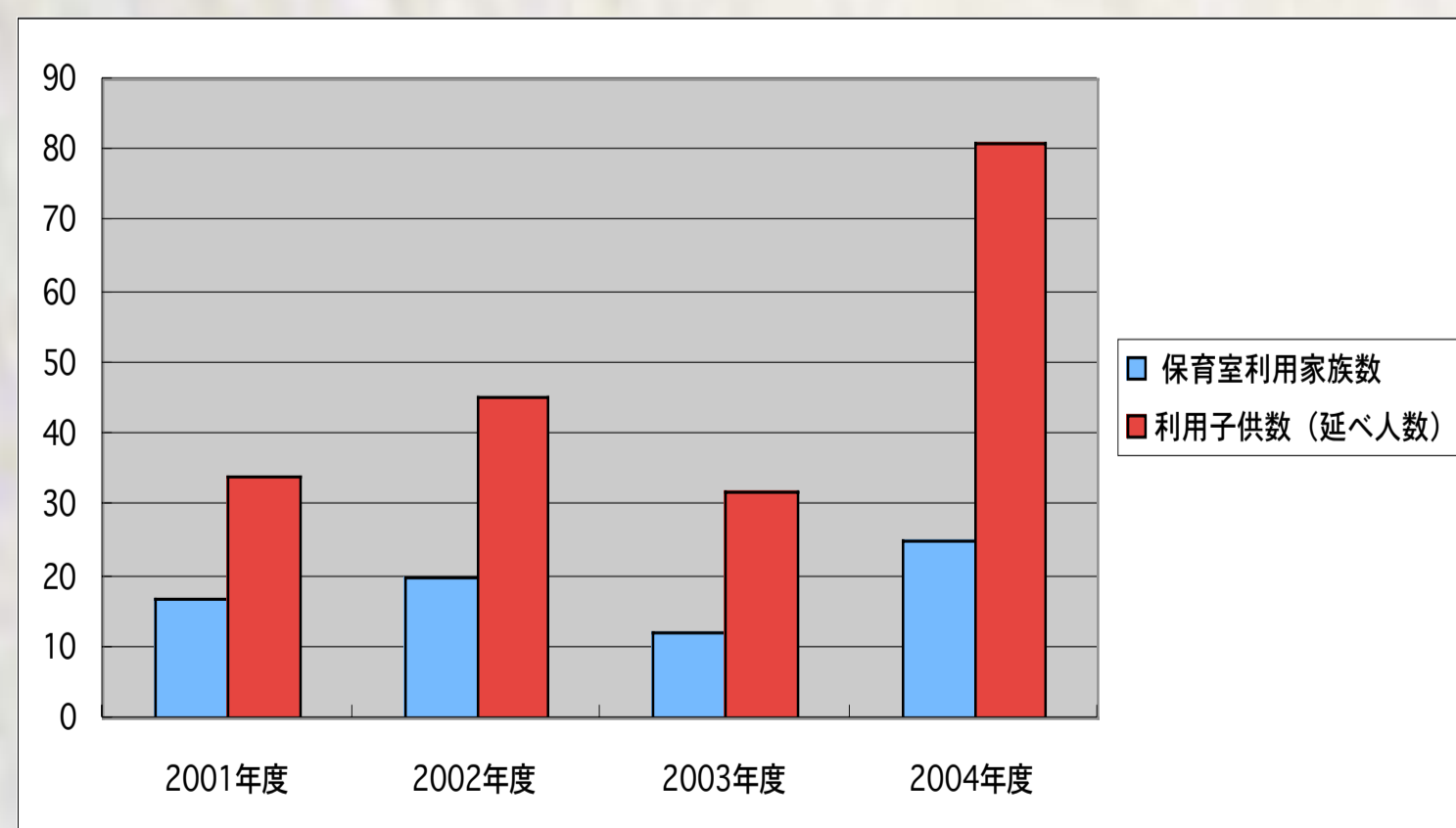
1家族あたりの保育料: 1,200円~15,600円 (円/時間)

5. 保育料が下がると

・延べ利用者がふえる

・学会負担もふえる

・キャンセルもふえる



時間帯	早期	午前	ランチタイム	午後	夕方	夜
	8:30-9:30	10:00-11:30	12:00-13:30	14:00-17:00	17:30-19:00	19:30-20:30
1日目						
2日目						
3日目						
4日目						

■ 予約してシッターが待機したにもかかわらず、こどもが1人も来なかった。
■ シッターよりもこどもの数が少なくなりました。こども1人にシッター3人~4人。

6. 今後の問題

・適切な保育料は？ 適切な運営形態は？